

学科	理容科	担当教員	宗像		
科目名	関係法規・制度	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	国家試験で合格点を取れる実力をつけるため、今までインプットした知識を適切にアウトプットできるように実際の国家試験を用いて演習を重ね、知識の定着を図る。苦手意識の高い分野については繰り返し理解を促す講義を取り入れる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	関連法規（生衛法） 【到達目標】生衛法が何を規定しており、どのような制度を整えているかを説明できる				
2	関連法規（労働法・日本政策金融公庫法） 【到達目標】理容師が労働者としてどのように法律に守られているか、また経営者としてどのように労働者を使用するかのイメージをもつことができる。資金調達の際、日本政策金融公庫にはどのような制度が用意されているか説明できる				
3	関連法規（顧客に関する法律・保健所） 【到達目標】理容師・経営者として関わる顧客に関し、どのような法律が用意されているか説明できる。保健所と理容師との関わりを述べるができる				
4	問題演習 1 【到達目標】理容師免許の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる				
5	問題演習 2 【到達目標】理容所開設の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる				
6	問題演習 3 【到達目標】行政処分・罰則の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる				
7	問題演習 4 【到達目標】総合問題・横断的な問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる				
8	定期試験				
到達目標	国家試験合格に向けて、理容師法の正確な知識を取得できているかを自ら確認しつつ、弱点を把握し、補強する。足りない知識についてはその都度見返し、自分の知識としていく。知識を用いて的確に問題の意図を掴み、正答する。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	教科書（関係法規・制度 公益社団法人日本理容美容教育センター） 1年次に使用したプリントを持参し、知識を確認する。				

学科	理容科	担当教員	中塚		
科目名	衛生管理（衛生管理技術）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	消毒法の種類や特徴、消毒に必要な条件、理容所における衛生管理技術の実例に関する知識を身につけることで、理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができる				
授業回	学習内容				備 考
1	衛生管理技術 消毒法総論① 消毒とは？ 【到達目標】微生物と人との関係、ヒトの防衛力、消毒に必要な条件、病原微生物の抵抗力、消毒の原理について理解し、説明することができる				
2	衛生管理技術 消毒法総論② 理容業務との関係 【到達目標】消毒薬の長所・短所について把握し、理容所での器具や布片類をはじめとする設備に対する適切な消毒薬、消毒に関連する法の規定、消毒の重要性と怠った場合の危険性について理解し、説明することができる				小テスト実施
3	衛生管理技術 消毒法総論③ 消毒法と適用上の注意 【到達目標】理学的消毒法の特徴 化学的消毒法の特徴（長所・短所を含む）について理解し、説明することができる。また、適切な消毒薬が効果的に作用する温度や時間や希釈方法について理解し、説明することができる 消毒法総論のまとめと前期期末試験対策（模擬試験）				
4	衛生管理技術 消毒法各論 ①理学的消毒法 ②化学的消毒法 【到達目標】理学的消毒法、化学的消毒法の用途、殺菌効果、長所と短所について理解し、その原理と応用について説明できる				
5	衛生管理技術 消毒法各論 ①すぐれた消毒法とその実施上の注意 ②各種消毒液 【到達目標】すぐれた消毒法の条件と消毒を行う際の注意事項、消毒の原則、器具や布片の消毒と注意点、消毒液の濃度、希釈の方法、器具の使い方、各種消毒液の調整法と計算の仕方について説明できるについて理解する				小テスト実施
6	衛生管理技術 理容所・美容所の消毒の実例（実践例） 【到達目標】理容の業務と消毒の関係、消毒法と適用上の注意、理学的消毒法・化学的消毒法の消毒条件、特徴、すぐれた消毒方法と実施上の注意点について理解し、説明することができる 消毒法各論と実践例のまとめと後期期末試験対策（模擬試験）				小テスト実施
7	衛生管理技術全体のまとめと国家試験対策 【到達目標】消毒法について、数ページにまとめることができ、国家試験対策に利用できるようになる				
到達目標	理容所における衛生管理技術の実例を学び、具体的な対策を理解することで、卒業後に進む理容業界で即戦力となる知識を習得する				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。また、定期的実施する小テストの成績も評価に加味する				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書「衛生管理」 ・配布プリント				

学科	理容科	担当教員	中塚		
科目名	衛生管理（感染症）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間（単位）	15
教育目標・ねらい	感染症の分類や発生の要因、予防に関する知識を幅広く身につけることで、理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができるようになる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	感染症総論 ①感染症発見の歴史 ②感染症と法律 ③感染症の分類 ④病原微生物 【到達目標】 ①研究者の歴史(人名と業績)②感染症の分類(法律上、形や大きさ、細菌の図解による説明(芽胞含む) ②微生物の増殖や好む環境について理解し、説明することができる)について理解し、説明することができる				
2	感染症総論 感染症の予防① 【到達目標】 感染源、感染経路、宿主の感受性、各種感染症の特徴、主症状、予防について理解し、説明することができる			小テスト実施	
3	感染症総論まとめと前期期末試験対策（模擬試験） 【到達目標】 理容業務と感染症の関わりを理解し、説明することができる				
4	感染症各論 ①理容・美容と感染症 ②空気・飛沫を介して感染する感染症、③飲食物を介して感染する感染症 【到達目標】 空気、飛沫、飲食物を介して感染する感染症の病原体・感染源、症状、感染経路、予防策について説明ができる				
5	感染症各論 ④血液を介して感染する感染症、⑤動物・節足動物を介して感染する感染症 【到達目標】 血液等、動物、節足動物を介して感染する感染症の病原体・感染源、症状、感染経路、予防策について説明ができる				
6	感染症各論 具体的な対策の例 ①標準予防策、②咳のある客への対応、③病変の皮膚をもつ客への対応、④嘔吐をした客への対応 【到達目標】 理容所における感染する感染症の症状、感染経路について具体的な対策の事例を学び、予防策について説明ができる 感染症各論のまとめと後期期末試験対策（模擬試験）			小テスト実施	
7	感染症全体のまとめと国家試験対策 【到達目標】 感染症について、数ページにまとめることができ、国家試験対策に利用できるようになる				
到達目標	理容師として必要な感染症に関する知識（具体的な予防策を含む）を身につけることにより、卒業後に進む理容業界で即戦力となる知識を習得する				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。また、定期的実施する小テストの成績も評価に加味する				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書「衛生管理」 ・配布プリント				

学科	理容科	担当教員	中塚		
科目名	衛生管理（公衆衛生・環境衛生）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間（単位）	15
教育目標・ねらい	公衆衛生・環境衛生についての知識を身につけることにより、理容師として安心、安全、かつ衛生的に施術することができる				
授業回	学習内容			備 考	
1	公衆衛生 ①公衆衛生の意義と課題 ②公衆衛生発展の歴史 【到達目標】公衆衛生の意義と公衆衛生が日常生活にどのように結び付くかについて理解し、また、公衆衛生の発展の歴史を概観し、公衆衛生がどのように発展してきたかについて説明することができる				
2	公衆衛生 保健所と理容業・美容業 【到達目標】保健所の機能、組織、業務などについて学び、保健所が地域の保健衛生行政において、中核的な存在であること及び理容業と保健所とは密接な関係であることについて理解し、説明することができる			小テスト実施	
3	公衆衛生 保健 ①保健 ・母子保健・成人・高齢者保健・精神保健 【到達目標】公衆衛生は対人的な予防医学と対物的な環境衛生と大別されることを理解し、さらに環境衛生が健康で文化的な生活の基盤をなすものであることについて理解し、説明することができる 公衆衛生のまとめと前期期末試験対策（模擬試験）				
4	環境衛生 ①環境衛生の概要 ②空気環境 【到達目標】環境衛生とはなにか、理容所における環境衛生、特に空気成分、温湿度、気流の健康に及ぼす影響について正しく説明ができるようになる				
5	環境衛生 ①衣服・住居の衛生 ②上・下水道と廃棄物 【到達目標】人々の健康維持に大きく貢献している衣服、住居の衛生管理、採光・照明、換気、冷暖房の重要性について理解し、上水道や環境の劣化を招きかねない下水・廃棄物について、それらの処理システムを含め理解する				
6	環境衛生 ①衛生害虫とネズミ ②環境保全 【到達目標】ハエ、蚊、ゴキブリ、シラミ、ダニ・ノミといった衛生害虫やネズミがどうして環境衛生上の問題となるのかを理解し、それらの駆除法について説明できるようになる。また、理容業にとって不可欠な「水」に関連する「水質汚濁」について理解する 環境衛生のまとめと小テスト 後期期末試験対策（模擬試験）			小テスト実施	
7	公衆衛生・環境衛生のまとめと国家試験対策 【到達目標】公衆衛生・環境衛生について、数ページにまとめることができ、国家試験対策に利用できるようになる				
到達目標	公衆衛生・環境衛生について学習・理解することにより、事業所の環境衛生の実践を含め、卒業後に進む理容業界で即戦力となる知識を習得する				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。また、定期的実施する小テストの成績も評価に加味する				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書「衛生管理」 ・配布プリント				

学科	理容科	担当教員	齋藤		
科目名	保健（人体）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	最終的には国家試験問題を全問正解することが目標であるが、それだけではなく、人体の構造を学ぶことにより理容人として、人間の美と健康に携わる職業であることの自覚を持ってもらう。また、自分の身体の健康や接客時のお客様との会話の中でも常識として理解を深めていただきたい。				
授業回	学習内容			備 考	
1	人体総合まとめ① 振り返り ・第1章～5章 【到達目標】骨の構造や種類、筋の種類や特徴に関する知識の確認を行い、正しく説明できる。 神経系、感覚器系に関する知識の確認を行い、正しく説明できる。				
2	第6章 血液・循環器系 血液のあらまし 【到達目標】 血液の成分や働きを覚える。				
3	血液の循環経路 心臓と血管のはたらき 【到達目標】 心臓の構造や血管の構造、循環のしくみやリンパ管系を覚える。				
4	第7章 呼吸器系 【到達目標】 鼻腔～肺の呼吸器の流れや呼吸期間の構造、呼吸法を覚える。				
5	第8章 消化器系 消化器系のあらまし 【到達目標】 口腔～肛門までの流れや消化器官の構造を覚える。				
6	消化管のはたらき 【到達目標】 消化管のはたらきや消化管の運動、消化のはたらきを覚える。				
7	人体総合まとめ② ・第6章～8章 【到達目標】 血液・循環器系に関する知識の確認を行い、正しく説明できる。呼吸器系、消化器系に関する知識の確認を行い、正しく説明できる。				
到達目標	理容師として必要な人体の構造及び機能を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	『保健』（理容美容教育センター編）、配布プリント（まとめ・練習問題）				

学科	理容科	担当教員	古荘		
科目名	保健（皮膚科学）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	皮膚の構造について理解し、サロンでの施術、お客様への対応に活かせるようにする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	表皮の構造について 1				
2	表皮の構造について 2				
3	真皮の構造について				
4	皮下組織について				
5	皮膚付属機関について 1				
6	皮膚付属機関について 2				
7	免疫機能について				
8	皮膚と皮膚付属機関の生理機能				
9	皮膚と皮膚付属機関の保健				
10	皮膚と皮膚付属機関の疾患 1				
11	皮膚と皮膚付属機関の疾患 2				
12	皮膚科学総まとめ				
13	国家試験対策				
14	国家試験対策				
到達目標	皮膚の構造について理解し、理容の業務に差し支えない様にする。				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。また、定期的実施する小テストの成績も評価に加味する				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・保健：日本理容美容教育センター指定教科書 ・各授業毎に資料配布 				

学科	理容科	担当教員	鈴木		
科目名	香粧品化学	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	施術で使用する方法だけでなく、成分や関連法規を含めた香粧品の構成を理解する。 皮膚や毛髪の構造を理解する事に作用の内容を発展的に理解する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	①香粧品概論 ②法律や規制 【到達目標】 香粧品の一般的概念と香粧品に関わる法律について説明できるようになる				
2	①香粧品の取り扱い ②安全性など 【到達目標】 香粧品の取扱方法や安全性の基準について説明できるようになる				
3	①香粧品の種類、性状 ②皮膚 ③頭皮 【到達目標】 香粧品の剤型や性状の特性、皮膚や頭皮の構造を説明できるようになる				
4	①水溶性原料 ②油性原料 【到達目標】 香粧品の一般的な原料について配合目的や特徴を説明できるようになる				
5	①界面活性剤 ②乳化について（実験と連動して説明）③高分子化合物 【到達目標】 香粧品の一般的な原料について配合目的や特徴を説明できるようになる				
6	前期のまとめ：香粧品の法律・原料・剤型の確認 【到達目標】 香粧品の使用目的や用途により原料から剤型の特徴を説明できるようになる				
7	①色材 ②香料 【到達目標】 香粧品の一般的な原料について配合目的や特徴を説明できるようになる				
8	①その他の配合成分 ②ネイル・まつ毛エクステンション用 【到達目標】 香粧品に用いられる製品安定化剤について説明できるようになる				
9	①皮膚洗浄用香粧品 ②化粧水 【到達目標】 皮膚用基礎香粧品についての特徴や使用用途を説明できるようになる				
10	③クリーム ④その他の基礎香粧品 【到達目標】 皮膚用基礎香粧品についての特徴や使用用途を説明できるようになる				
11	①メイクアップ ②芳香製品 【到達目標】 各種香粧品の特徴を理解を深め説明できるようにする				
12	①頭皮・毛髪用 【到達目標】 染毛剤、パーマ剤を含む頭毛用香粧品の成分、法律や注意事項を説明できるようにする				
13	まとめ 【到達目標】 様々な種類の香粧品についての知識を増やし、説明できるようにする。				
14	まとめ 【到達目標】 理容師として必要な香粧品に関する知識の確認を行い、正しく説明できるようにする。				
到達目標	①香粧品に関する法律について知ってうえでの施術を可能にする。 ②香粧品に配合されている成分に対し配合目的を明確に説明可能にする。 ③頭皮・毛髪用の香粧品については、特徴・使用法・関連法規を説明可能にする。				
評価方法	・各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験する事ができない。				
テキスト	・香粧品化学：日本理容美容教育センター指定教科書 ・まとめと概要のプリント（毎授業時に配布）				

学科	理容科	担当教員	坂上		
科目名	文化論	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	14
教育目標・ ねらい	理容師の仕事は、お客様とのコンセンサスを得たうえで技術を提供することが大変重要である。「文化論」の学びの内容には、コンセンサスを得るためのヒントや創造の幅を広げるエッセンスが多く存在している。これらの基本を知り、日々の学びや経験の中で各自が理解を深めることを目指す				
授業回	学習内容			備 考	
1	礼装の種類/和装の礼装・洋装の礼装について				
2	ファッション文化史西洋編/古代エジプト～16世紀まで				
3	17世紀～19世紀までのファッション文化について				
4	1910年代以降のファッション文化について				
5	グループワークによる国家試験を想定した問題作成				
6	グループワークにて作成した問題集を模擬試験及び解答				
7	定期試験				
到達目標	自分たちで国家試験を想定して問題を作成することで国家試験にむけ理解を深める				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	理容文化論（日本理容美容教育センター指定教科書）				

学科	理容科	担当教員	畑中		
科目名	運営管理（マーケティング論）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	仮想店舗の創作を体験したり、「運営管理」のテキストで理論を習得したりすることで、将来、サロン内外で管理業務的職務の遂行が必要になった場合に対応できるようになる。				
授業回	学習内容				備 考
1	「運営管理」テキストを活用した「財務・税金の知識」の習得 【到達目標】 貸借対照表と損益計算書の見方が分かるようになる。また、税の種類や納税の基礎知識を説明できるようになる				
2・3	班ごとに作成した仮想店舗の損益計算の確認 【到達目標】 なぜこのぐらい売上が必要なのかを説明できるようになる				
4	班ごとに作成した仮想店舗のコンセプトの再確認と役割分担確認 【到達目標】 コンセプトに基づいたチームの役割分担の方法を説明できるようになる。同時に、チームで行うことの大切さを習得する				
5	「運営管理」テキストを活用し、と国家資格学科試験に対応できるための能力を養いながら、4回までのグループワークで実行した「価値の知識」の習得と「マーケティング・ミックス」の理解。 【到達目標】 理容業のサービスの価値の中身とマーケティングの基本理論を説明できるようになる。				
6	「運営管理」テキストを活用し、「労働基準法」「労働安全衛生法」の理解と前期に学習した財務の復習・・・小テスト 【到達目標】 労働基準法や給与について、労働安全衛生法などの概要を説明できるようになる				
7	テキストを活用し、「社会保険知識」の習得と小テストの実施。 【到達目標】 社会保険の種類とその中身を説明できるようになる。				
8	後期テスト				
到達目標	サロン運営の基礎知識を学び、将来的に、店舗オーナーや管理者になったときに役に立つ知識を仮想体験すると同時に、国家試験科目の「運営管理」に対応できるものとする。				
評価方法	個別の知識については、前期と後期にテストを行い、その点数により、また、市場創造力については、発表内容によって評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	・運営管理（日本理容美容教育センター指定教科書） ・配布プリント				

学科	理容科	担当教員	高橋・古市・三宅		
科目名	理容技術理論	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	90
教育目標・ ねらい	理容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようにする。				
授業時間数	学習内容				備 考
1~4	ヘアカッティング	(1) スタンダードヘアの概要 (2) スタンダードヘアの用具の持ち方と操作 (3) スタンダードヘアのカット技法 【到達目標】スタンダードヘアスタイルの特徴及びヘアカッティング技法を説明することができる			
5・6	パーマメントセット	(1) パーマメントウエーピング (2) コールド二浴式パーマメントウエーブの一例 (3) アイアニング 【到達目標】パーマメントを施術するうえで必要な薬剤の知識、種類、効果効能などを説明できる			
7・8	ヘアカラーリング	(1) ヘアカラーリング技術のプロセス (2) ヘアカラーリングの一例 【到達目標】ヘアカラーリングを施術するうえで必要な薬剤の知識、種類、効果効能などを説明できる			
9~12	シェービング	(1) メンズフェイスシェービング (2) メンズネックシェービング (3) グルーミング (4) レディースシェービング 【到達目標】シェービングを安全に正しく施術できるように必要な理論及び技法を説明できる			
13・14	理容エステティック	(1) スキンケア (2) フェイシャルケア (3) ハンドケア 【到達目標】スキンケア、フェイシャルケア、ハンドケアの理論及び技法を説明することができる			
15~17	理容用具	シザース、レザー、クリッパー、コーム、ブラシ、ヘアアイロン、ヘアドライヤー 【到達目標】理容用具を安全に正しく使用していく為に必要な知識と取扱い方について説明できる			
18~20	ヘアカッティング	スタンダードヘアのスタイル別カットシステム 【到達目標】スタンダードヘアのスタイル別の特徴を説明することができる			

授業時間数	学習内容		備考
21～29	国家試験対策授業	理容技術理論1・理容技術理論2 【到達目標】理容技術理論にある各章の重要なポイントを説明することができる	
30	学期末試験	学科試験	
到達目標	理容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、理容師としての基礎的知識を習得する。		
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は受験することができない		
テキスト	「理容技術理論1・2」(日本理容美容教育センター指定教科書)		
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う		

学科	理容科	担当教員	高橋・古市・三宅		
科目名	理容実習	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	360
教育目標・ ねらい	理容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようにする。				
授業回	学習内容				備 考
1~20	メンズカット	3つのヘアスタイル（マッシュウルフ、アップバン グ、クロップ）通じて、ヘアデザインの幅を広げる 【到達目標】3つのヘアスタイルを通じてヘアスタ イルのデザイン別に合わせたカット理論、技 術を習得する			40時間
21~42	フォーマルカット	国家試験合格を見据えながらミディアムカットスタ イル（試験課題）をデザインするため、必要なヘア カット理論とスタンダードヘアカット技術の 習得 【到達目標】17分間で、ミディアムカット及び整髪 をすることができる			44
43~73	シェービング	シェービング理論と技術の習得及びシェービングの 事前事後のお肌のケアについての理論と技術の習得 【到達目標】お客様に快感を与えられ、シェービ ング理論と技術の習得とお客様から好感を持たれる接 客をすることができる			62
74~126	資格試験課題 (ミディアムカット)	国家試験合格レベルのミディアムカットに必要なヘ アカット理論とスタンダードカット技術(基礎 刈り、仕上げ刈り、セニングカット)を実習班で学び合 う 【到達目標】ミディアムカット20分間、セニ ングカット5分間で安全にヘアカットができる			106
127~180	コース選択 (スタイリスト)	ヘアデザインに必要な応用する力と想像力を高める ために必要な基礎的知識、技能を修得する 【到達目標】ヘアスタイルを立体的に観測し、ヘア デザインの構造と技法を読み解く能力を活かし、ヘ アスタイルをカタチにすることができる			108
	コース選択 (リラクゼーション)	女性に施術することを目的としたシエステ(=シェ ーピングエステ)及びネイル、メイクの基礎的知識、技 能を修得する 【到達目標】肌質やスキントラブルを分析し、シ エステを駆使しながらモデルの肌を美しくするこ とができる。また、ネイルやメイクなども加えること により、トータルビューティーまで発展させた立案・ 提案をすることができる			
到達目標	理容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、理容師としての基礎的技能を習得する。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				

学科	理容科	担当教員	石川		
科目名	理容美術（デッサン）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	14
教育目標・ ねらい	頭部の形、細部の形を捉える				
授業回	学習内容			備 考	
1	授業の狙いについての説明、次回以降の説明、ウォーミングアップとしてのドローイング(頭部の解剖的構造の捉え方、書き方)			任意のデッサン用具 を用意すること (色もつけて良い)	
2・3	任意の写真をもとに頭部のデッサン 1日目			同上	
4・5	任意の写真をもとに頭部のデッサン 2日目				
6・7	任意の写真をもとに頭部のデッサン 3日目 + 講評				
到達目標	頭部の構造の理解と大きな構造に伴った細部の表現				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	必要に応じて配布				

学科	理容科	担当教員	古荘		
科目名	理容美術（理容フォト）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	16
教育目標・ ねらい	ポートレート写真撮影をベースに、良い写真とはどういうものか（アングル、明度、彩度、フォーカスなど）を学習する。美容写真撮影の工程が理解できるようにする。				
授業回	学習内容				備 考
1	フォト授業の目的について スマホ使用での「アングル」学習、一眼レフカメラの扱い方				
2	一眼レフカメラによる、各種設定と、その効果について				
3	一眼レフによるポートレート撮影実習①				
4	一眼レフによるポートレート撮影実習②				
5	一眼レフによるポートレート撮影実習③				
6	一眼レフによるポートレート撮影実習④				
7	一眼レフによるポートレート撮影実習⑤				
8	一眼レフによるポートレート撮影実習⑥				
到達目標	サロンなどでやっている「作品撮り」をどのように行っているのかが理解できる様になる。また、簡単なものであれば作品撮影が出来る様になる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	オリジナルテキスト「理容フォト」「理容フォト設定編」使用。				

学科	理容科	担当教員	杉崎		
科目名	表現技術（話し方論）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	どんな職業に就いても、社会人として必要なビジネス知識やマナーをワークブックにまとめながら覚える。学ぶ順：言葉づかい→電話対応 ジョブパス検定3級合格を目指す。				
授業回	学習内容				備 考
1	社会人としての心構え。話し方、聞き方のポイント 【到達目標】言葉づかいで人間関係が変わるという意味を知る。				ワークブック 小 テスト①
2	好感のもたれる話し方（丁寧語、尊敬語、謙譲語の復習） 【到達目標】敬語の文法を再確認し、日常会話で使えるようになる。				ワークブック 小 テスト②
3	敬語の練習問題 【到達目標】さまざまなケースを練習して社会人としてふさわしい言葉遣いができるようになる。				ワークブック 小 テスト③
4	電話対応のマナーと配慮するポイント。 【到達目標】職場での電話対応がスムーズにできるよう基本的な流れを理解する。				ワークブック 小 テスト④
5	電話の受け方 【到達目標】さまざまなケースで練習し、会話の流れや言葉づかいを学び、読みやすいメモが書けるようになる。				ワークブック 小 テスト⑤
6	電話のかけ方 【到達目標】さまざまなケースで練習し、電話を通して言いたいことが適切に言えるようになる。				ワークブック 小 テスト⑦
到達目標	ビジネス会話、電話対応の知識とスキルをワークブックをまとめながら覚え、実践できる。同僚、上司、お客様との会話や電話対応がストレスなくスムーズにできる。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）と提出課題により評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	ビジネスマナーワークブック				

学科	理容科	担当教員	杉崎		
科目名	表現技術（国語と文章）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	企業の組織や役職、社内、社外文書やメールの書き方を通して、ビジネス実務を身につける。 新聞記事のトピックを説明し時事用語、ビジネス関連常識を増やす。				
授業回	学習内容			備 考	
1	PCの活用方法と組織図作成 【到達目標】 PCと周辺機器について理解する。企業の組織図を作成して役職名 や責任を知る			ワークブック 小 テスト①- 1	
2	ビジネス文書の受発信の流れと、表記法について 【到達目標】 表記法に則った数字の書き方でビジネス文書が作成できる			ワークブック 小 テスト①	
3	商取引上の文書の種類について 【到達目標】 稟議書など帳票と印鑑、デジタル化される文書の活用ができる			ワークブック 小 テスト②	
4	社内、社外文書について 【到達目標】 相違点と注意ポイントをまとめ、相手に合わせた表現で文書が書け る			ワークブック 小 テスト③	
5	文書構成のまとめと社交文書について 【到達目標】 さまざまな社交文書の書き方と日本人ならではの表現ができる			ワークブック 小 テスト④	
6	グラフ・メールの作成について 【到達目標】 エクセルで適切なグラフが作成できる。ビジネスメールが書ける			ワークブック 小 テスト⑤	
到達目標	ビジネス文書の取り扱い、社内、社外、メールのが作成できる。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受 験することができない。また、小テストの成績も評価に加味する。				
テキスト	ビジネスマナーワークブック				

学科	理容科	担当教員	高橋・古市・三宅		
科目名	ビジネスマインド	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	社会人・職業人として、組織の中で自分が振る舞うビジネスマナーを正しく理解し行動変容を行う 加えて、自身の課題に向き合う課題発見能力や問題解決能力を養い、自律した思考と行動の実践。				
授業回				備 考	
1	LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー（復習） 「6-1 時間のマナー、6-2 仕事上のコミュニケーション、6-3 PDCA」 【到達目標】 職場での円滑な関係性を築くための基本マナーの習得。			ビジネス マナーテキスト p51～54	
2	LESSON2 身だしなみ+立ち居振る舞い（復習） 「2-1 身だしなみ、2-2 立ち居振る舞い」 【到達目標】 『品性』のある身のこなしを学び、実践する。			ビジネス マナーテキスト p10～15	
3	LESSON3 言葉遣い① 「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック、3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】 職業人としての言葉の使い方を学び、表現できる。			ビジネス マナーテキスト p16～24	
4	LESSON3 言葉遣い② 「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック、 3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】 職業人としての言葉の使い方を学び、表現できる。			ビジネス マナーテキスト p16～24	
5	LESSON1 ビジネスパーソンとは① 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】 『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテン シーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える			オリジナル教材 Powerpoint KJ法ワークショップ	
6	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】 『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテン シーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える			オリジナル教材 Powerpoint KJ法ワークショップ	
7	LESSON1 ビジネスパーソンとは③ 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】 『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテン シーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える			プレゼンテーション	
8	クラス目標・個人目標振り返り			クラスミーティング	
到達目標	社会人として自分の立ち位置や直面する状況を理解し、適切な対応をとることができる。 このことにより組織の一員として認められるようになる。				
評価方法	個人目標振り返りによる自己評価と、それに基づく担任面談の結果による。なお、所定授業時 数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	ビジネスマナーテキスト				

学科	理容科	担当教員	高橋・古市・三宅		
科目名	ビジネスマインド（就職指導）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	理容師としてのキャリアを早期に考える事で学ぶ目的が明確化し、自身の希望サロンへの就職というゴールに向けて計画を立て行動していくことを学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1～7	〈サロン説明会〉 様々な業態の理容サロンを招き、各サロンの特徴を知る。このことを通して理容サロンの幅広い業態ならびに理容業界の理解を深める。				
8～15	〈就職指導〉 ・履歴書の書き方 ・就職内定までの計画の立案と実行と修正 ・内定のお礼状の書き方				
到達目標	理容師としてのキャリアプランから逆算した就職活動(サロン見学、体験入店)を行い、就職先サロンを確定することができる				
評価方法	課題提出のサロンレポートにて評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	「サロンレポート1・2」				

学科	理容科	担当教員	立花		
科目名	高度総合理容技術理論（毛髪化学） <input checked="" type="checkbox"/>	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	プロとしての薬液理論を理解し、ウェーブやカラー技術で1つのスタイルを完成させる				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	ウェーブ剤の種類 【到達目標】毛髪にあったウェーブ剤を理解				
3・4	実習で実際にウェーブかける 【到達目標】スタイルに合っているか				
5・6	カラー剤の種類 【到達目標】染まるメカニズムを理解				
7・8	応用カラー剤の種類 【到達目標】モデル実習でカラー剤を理解				
到達目標	より実践的である薬液理論を修得することで、卒業後に理容師として必要とされる知識を身に付ける				
評価方法	相モデルによる実習（カウンセリング）により評価する。カウンセリングにおける対応力(知識、情報収集力等)を評価基準とする。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	(株)ミューズ研究所作成テキスト <input checked="" type="checkbox"/>				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、基礎技術をさらにブラッシュアップした創造的なスタイル作成の指導を行う				

学科	理容科	担当教員	鈴木		
科目名	高度総合理容技術実習 (香粧品の製法)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	6
教育目標・ ねらい	理容師としての基礎知識（香粧品化学と連動）の集積の為、各製剤の特徴や作用の仕組みや処方 の構成を理解する事を目的とする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	①基礎香粧品に関する講義 ②化粧水・洗顔フォームの試作 【到達目標】各原料の役割と特徴を説明可能にする（香粧品化学と連動）				
2	①シャンプーについてのステップアップ講義 ②洗剤の違いによる性能比較のシャンプー試作 【到達目標】各原料の役割と特徴を説明可能にする（香粧品化学と連動）				
到達目標	①各香粧品の内容物の成り立ちや使用目的を把握し説明できる ②香粧品に配合されている成分に対し配合目的を明確に説明できる ③各製剤の配合物の種類や量による性能の差異を、香粧品化学の講義と連動して説明できる				
評価方法	各期実験レポート（80点満点）、及び筆記小テスト（20点満点）で評価する。なお、所定授業 時間数（全体の4/5）を下回る学生は受験する事ができない。				
テキスト	・香粧品化学：日本理容美容教育センター ・授業毎にプリント（処方）配布				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は35年以上の化粧品製造会社の技術職勤務経験を 踏まえ、実験を主体に、サロン現場で必要となる化学知識の習得を目的とした授業を行う				

学科	理容科	担当教員	高橋・古市・佐藤		
科目名	高度総合理容技術実習	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	選択必修	授業時間 (単位)	174
教育目標・ ねらい	理容技術の基礎的知識、技能を身につけ、ビューティークリエイターとして必要な応用する力と想像力を高める。				
授業回	学習内容				備 考
1～20	シェービング	シェービング理論と技術の習得及びシェービングの事前事後のお肌のケアについての理論と技術の習得 【到達目標】お客様に快感を与えられ、シェービング理論と技術の習得とお客様から好感を持たれる接客ができる			40
21～25	リアシャンプー	リアシャンプー理論及びリアシャンプー技術を習得する 【到達目標】お客様に快感を与えられるリアシャンプー技術並びに好感を持たれる接客力を習得する			10
26～30	スタンドシャンプー	スタンドシャンプー理論及びスタンドシャンプー技術を習得する 【到達目標】お客様に快感を与えられるスタンドシャンプー技術並びに好感を持たれる接客力を習得する			10
31～33	メンズアイロンスタイル	モデルウィッグにアイロンパーマを施術するためにアイロン技術及び理論を習得する 【到達目標】アイロンの操作ならびにアイロンパーマの一連の施術を習得する			6
34～83	卒業制作	髪の毛を自由に表現するために必要なカット技術とブローセット技術を応用し、クリエイティブなヘアスタイルを作成するための技術を習得する 【到達目標】今まで学んできた基礎技術を応用し、卒業制作のテーマに合わせて作品を制作することができる			100
84～87	コンテスト	クリエイターとしてクリエイティブな作品を作るために必要な応用技術を習得する 【到達目標】今まで学んできた基礎技術を応用し、コンテストのテーマに合わせて作品を制作することができる			8
到達目標	ヘアスタイルを立体的に観測し、ヘアデザインの構造と技法を読み解く能力を活かし、ヘアスタイルをカタチにする技術を習得する。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、基礎技術をさらにブラッシュアップした創造的なスタイル作成の指導を行う				